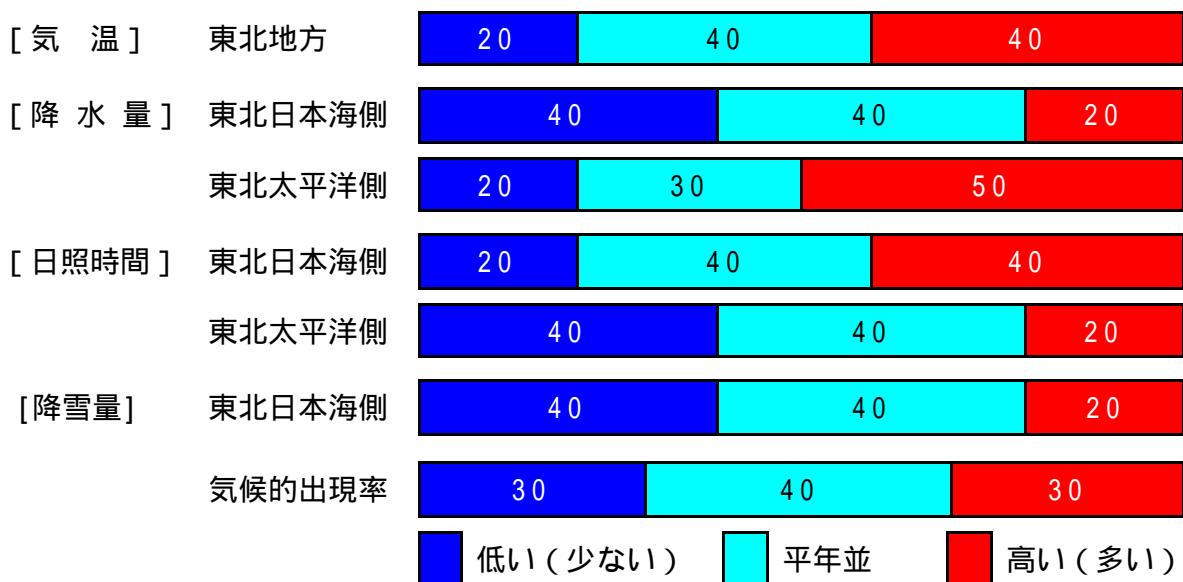


東北地方1か月予報の解説(予報期間:1月1日~1月31日)

平成11年12月31日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「低い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。東北太平洋側は「多い」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、冬型の気圧配置となりますが、長続きしないでしょう。低気圧の通過で東北太平洋側でも天気が崩れる日があるでしょう。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

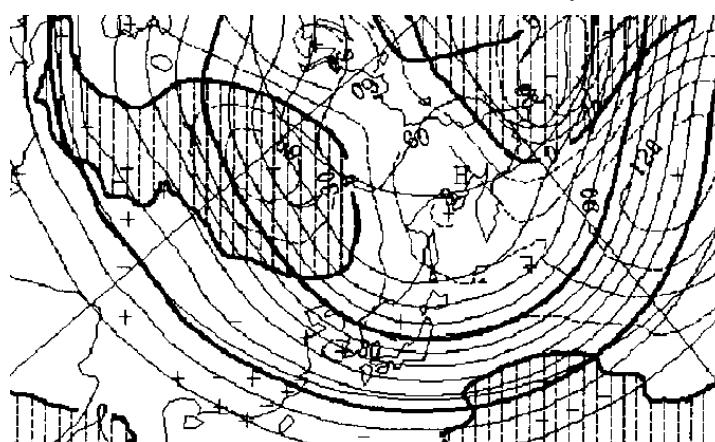
この期間の平均気温は平年並か高い見込みです。また、東北日本海側の降雪量は平年並か少ない見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約7日、東北太平洋側で約22日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 向こう一週間は、気圧の谷が3日頃と期間の終わりに通るでしょう。その他の日は冬型の気圧配置となる日が多い見込みです。東北日本海側を中心に雪や雨の日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れるでしょう。
- (1月1日～1月7日) 平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約1日、東北太平洋側で約5日です。
- 2週目…………… 冬型の気圧配置となる日が多いですが、低気圧の通過で東北太平洋側でも天気が崩れる日があるでしょう。平年に比べ、東北日本海側は曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ないでしょう。
- (1月8日～1月14日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約5日です。
- 3～4週目…………… 冬型の気圧配置となる日が多いですが、低気圧の通過で東北太平洋側でも天気が崩れる日があるでしょう。平年に比べ、東北日本海側は曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ないでしょう。
- (1月15日～1月28日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約10日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

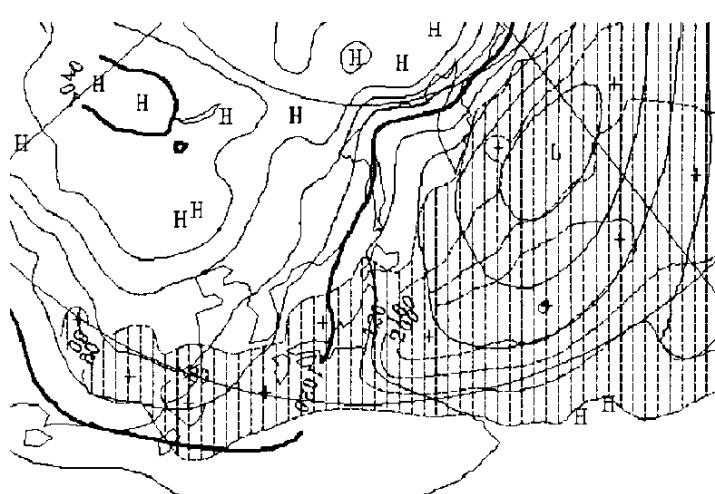


月平均の500hPa高度・偏差
(等高度: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

・500hPa高度・偏差

月平均でみると、日本付近は弱い正偏差。東経90°付近は負偏差で日本付近に強い寒気が入りにくいことを表している。上空の流れはゾーナル^{注1}で冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響を受けやすい。週別でも、ほぼ同様の傾向を示す。

注1) ゾーナル: 偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。



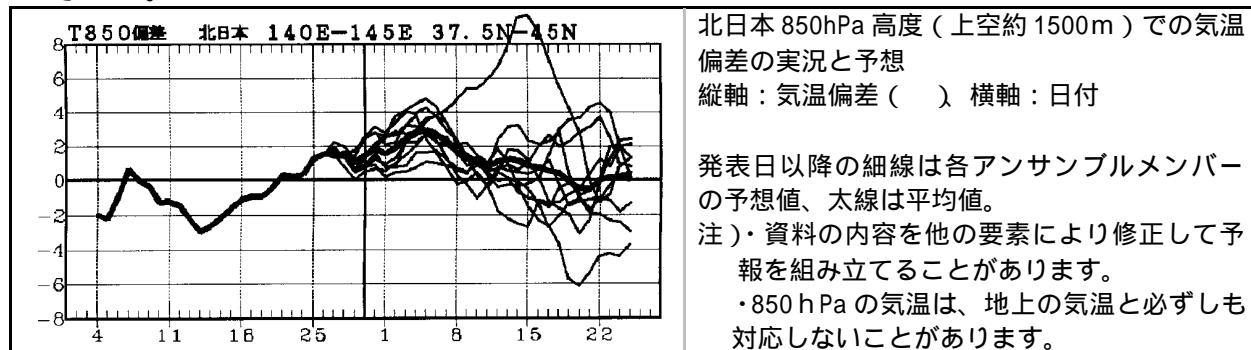
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、大陸から高気圧が張り出し、北海道のはるか東海上には低気圧があって、日本付近は弱い冬型の気圧配置となっている。また、本州南岸は、等圧線がややくびれており気圧の谷が通りやすいことを示している。これらに伴う降水域は日本海中部と日本の東海上、本州の南岸沿いに広がる。週別(図略)では、2週目以降ほぼ同様の傾向を示す。

3. 北日本 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目は正偏差、2週目以降は正偏差から徐々に平年並に近づく。2週目後半からは、ばらつきが大きくなり、3週目以降はばらつきがかなり大きい。また、著しい高温を予想するメンバーもあり、信頼度は小さい。

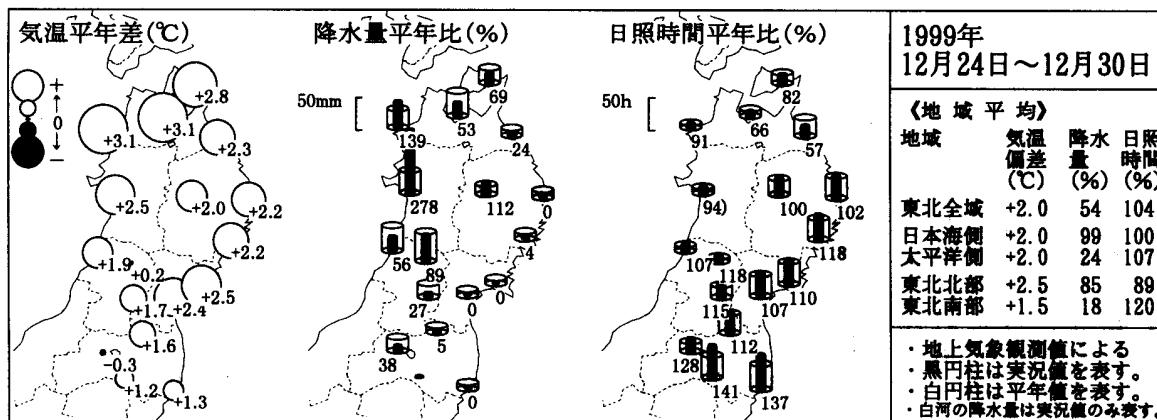


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（12月24日～12月30日）の天候の経過

この期間、冬型の気圧配置となる日は少なかった。24～25日は日本海を低気圧が通過したため東北北部では曇りや雨となり、東北南部では晴れた。26～27日は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪、東北太平洋側では概ね晴れとなった。28～29日は前線が東北地方に停滞し、28日は東北北部で、29日は東北日本海側南部で雨となった。30日は、弱い気圧の谷の影響で東北南部では一時雨となった。

平均気温は、東北地方で平年差+2.0℃。降水量は、東北日本海側で平年比99%、東北太平洋側では平年比24%。日照時間は、東北北部で平年比89%、東北南部で平年比120%だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）